

# 青少年育成センターだより

第25号 平成29年9月



9月になり、運動会のシーズンになりました。(最近は、春に実施する学校も増えてきましたが・・・。) みなさんも透き通った空を見て、子ども時代の運動会のことを思い出されるのではないのでしょうか。

運動会では、歯を食いしばって走っている姿、組体操でピラミッドの台になり踏ん張っている姿、快活にダンスを踊っている姿等が見られます。そのような子どもたちの姿は輝いていて、見ていると胸が熱くなります。本当に、若さって素晴らしいですね。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そして地域の皆さん、ぜひ学校に行って応援をしてやってください。きっと子どもから活力がもらえます。

## 若い時の苦勞は買ってでもせよ

「青少年育成センターだより」第20号で、「マシュマロテスト」の話を紹介し、子どもに我慢をさせることの大切さについて考えました。ここではもう一度、「四ツ葉のクローバー」という詩から子どもに「我慢させること」「苦勞をさせること」について考えてみましょう。

### 「四ツ葉のクローバー」

幸せのシンボル 四ツ葉のクローバーを  
簡単に作る方法がある 毎日踏みつけばいい  
そうすれば太陽の光を なんとか多く得ようと  
葉の数を増やした 四ツ葉ができる  
苦勞 苦しみに会って進化するんだ  
人間も進化するために 神様が苦勞を与えて下さるのだろう  
苦勞は幸せになるために 必要なのかも知れない



よしき（「ピンチの裏側」山本よしき詩集から）

この詩の中には、子育ての秘訣があるように思います。子どもには、「我慢をさせること」や「苦勞をさせること」が成長する上で大切なことだと教えてくれています。

みなさんも覚えておられるでしょう。あの時の苦勞があったから、「今の自分がある」「今、我慢ができる」ということを……。それは子どもも同じです。子どもが苦勞をしている姿を見たら、かわいそうで手を出してやりたくなります。それも親心でしょう。しかし、すぐに手を差し伸べるのではなく、見守り、応援をしてやって欲しいのです。よく「若い時の苦勞は買ってでもせよ」と言われます。若い時に苦勞をすることは、その後の成長を促す大切な経験なのです。

今は、お金さえあれば何でも手に入る時代です。子どもが欲しいと言ったらすぐに親が買い与える。そのようにして手に入れたものに何の価値があるのでしょうか。欲しい物があつたら、努力をすることで得ることができる、汗や涙を流すことにより、やっと手に入る。そのような経験をさせることが必要なのではないかということを「四ツ葉のクローバー」の詩が教えてくれています。「四ツ葉のクローバー」は、幸せを招くと言われますが幸せは、苦勞の先にあるのだということではないのでしょうか。

ご家族で我慢することの大切さについて考えてみませんか。